令和４年　第１３回文教厚生常任委員会会議録

令和４年１２月１２日　議員控室

○事　件

所管課報告事項

（１）　「八雲町立八雲小学校少人数学級事業」について（学校教育課）

（２）　令和５年八雲町二十歳の集いについて（社会教育課）

（３）　旧熊石高等学校公宅取得（購入）事業概要について（熊石教育事務所）

（４）　関係人口の拡大による熊石地域の人材確保に向けた取り組みについて（住民サービス課）

（５）　熊石デイサービスセンターへの温泉供給停止について（住民サービス課）

○出席委員（８名）

委員長　赤　井　睦　美　君　　副委員長　佐　藤　智　子　君

大久保　建　一　君　　倉　地　清　子　君

黒　島　竹　満　君　　齋　藤　　實　君

関　口　正　博　君　　能登谷　正　人　君

○欠席委員（０名）

○出席委員外議員（４名）

議長　千　葉　　隆　君

○出席説明員（１２名）

教育長　土　井　寿　彦　君　　学校教育課長　三　坂　亮　司　君

学校教育課参事　小　林　卓　也　君　　学校教育課長補佐　松　浦　真理子　君

社会教育課長　佐　藤　真理子　君　　社会教育課長補佐　長谷川　聡　司　君

熊石教育事務所長　野　口　義　人　君　　教育推進係長　佐々木　直　樹　君

住民サービス課長　北　川　正　敏　君

○出席事務局職員

事務局長　三　澤　　聡　君　　庶務係長　菊　地　歩　夢　君

〔開会　午後　１時３０分〕

◎　開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君）　皆さんお疲れ様です。

ただいまより、第13回文教厚生常任委員会を始めさせていただきます。では早速、報告事項に入ります。

◎　所管課報告事項

【学校教育課職員入室】

○委員長（赤井睦美君）　八雲小学校少人数学級事業について、学校教育課よりご報告よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君）　それでは、私から八雲町立八雲小学校少人数学級事業についてご説明申し上げます。

この事業は、八雲町における教育現場が抱える課題の解決や、児童生徒の学力向上を図るなど、よりきめ細かな教育を実現するため、八雲町が独自に教員免許を有した職員を配置しようとするものです。

現在、北海道では2024年までに35人学級の完全導入を目指して取り組みを進めておりますが、この事業では、町が独自に教員免許を有した職員を採用し、北海道より更に進め、25人学級としようとするものです。職員を配置するのは、特に効果が想定される八雲小学校の第１学年並びに第２学年を予定しております。

八雲小学校では、近年70名前後の入学生を迎えることが多く、入学時の学級編成が最大の35人になることが多くあります。そのため、教員の負担が大きく児童が入学してから早々に取得させたい基本的生活習慣や、学習習慣を取得させづらい環境であり、学校及び教育委員会としても、課題として解決方法を検討してきたところです。

導入により想定している効果は、担任がより児童一人ひとりに接する時間を今まで以上に確保でき、よりきめ細かな教育活動を実施できることから、資料の２にあるとおり、一つ目として、義務教育の基盤となる望ましい心身の発達、そして二点目、基本的生活習慣の取得をさせることができ、さらにより早く児童の異変やＳＯＳをキャッチできることで、三点目のいじめ、不登校の出現率を低下させることができるものと考えております。

学力面では、学校生活がはじまる初期段階で、基本となる学習の習熟度の向上が図ることができることから、最終的に児童生徒の学力向上を図ることができるものと考えております。少人数学級とすることで、学校職員の負担が軽減され、今まで以上によりきめ細かな教育活動が実現できることから、先に説明した効果のほか、さらに効果を発揮できるものと考えております。

３、配置する職員及び人数ですが、小学校の教員免許があるもの、八雲町職員として採用することとし、令和５年度に１名、令和６年度に１名の合計２名を採用しようとしておりま

す。なお、資料の５のとおり、採用者は八雲小学校の第１学年、第２学年を学年進行で担当とさせることとしております。

資料の４の採用した場合の給与及び服務については、八雲町職員であることから、八雲町職員、八雲町一般職員に準ずるものとし、勤務時間等の実際の服務については、八雲町職員と異なる事項については、北海道教職員の規定に準ずるものとするよう、現在、総務課と最終的な調整を行っているところです。

最後に、任用にあたっては、先に説明したとおり、小学校教員免許を必須とし、八雲小学校の新入学児童が大幅に減少し、25 人以下での学級編成が継続する場合などには、町職員として採用していることから、教育委員会や役場に勤務する行政職員に任用換えを行うことがあり得るとしております。

今後、広報、ハローワーク、ホームページ、求人誌等で募集を行うこととしておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

以上、雑ぱくですが、八雲町立八雲小学校少人数学級事業についての説明とさせていただきます。

○委員長（赤井睦美君）　このことについて、質問やご意見はありませんか。

○委員（佐藤智子君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。

○委員（佐藤智子君）　これは町職員として雇用するということですが、１学年を受け持った後に２学年も続けてという形を想定しているんだと思いますが、２学年が３学年に上がるときには、また１学年を受け持つという固定みたいな形あを想定しているんでしょうか。

○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君）　佐藤副委員長がご指摘のとおり、１年生、２年生が終わったあとに、また１年生に戻ってということで、低学年の連続での担当と考えてございます。

○委員長（赤井睦美君）　他に質問ありませんか。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　関口委員。

○委員（関口正博君）　給与についてお伺いさせてください。八雲町一般職員の給与、それと北海道教職員の給与は、異なる事項については北海道教職員の規定に準ずるということで、普段の給与って、これ差異があるんですか。北海道教育委員会の規定と八雲町の規定で。

○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君）　関口議員の質問ですが、八雲町職員と北海道教職員では給料表が違いますので、給料には差がございます。金額というかどっちが高いかというと、北海道の職員、教職員のほうが高いと思われます。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　関口委員。

○委員（関口正博君）　すみません、今のを聞いてなんですが、似たような取組をやっている先例事項があるのかと、この募集要項で現状においてこれからなんでしょうけれども、募集をかけて、働きたいという方がいるんですかね。
○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。
○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。
○学校教育課長（三坂亮司君）　まず先行的な事例ですが、道内で数カ所、既に独自の少人数学級ということで実施をし、それぞれ成果を上げているということを確認してございます。それから、募集も応募があるのかということですが、教員不足の状況ではありますが、応募はありそうなかたちで聞いておりますので、そういった方に是非、応募していただければと考えておりますので、応募はあるものと考えてございます。
○委員長（赤井睦美君）　よろしいですか。
○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。
○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。
○学校教育課長（三坂亮司君）　それから今回、八雲町の場合は、職員の採用について、先進事例がありますが、正規職員としてこういう採用しようとするのは、おそらく全道で初めての事例になると思います。正規職員で採用することで、より効果を多く発揮できると、我々考えていますので、正規職員として採用して、この事業を進めていくと考えてございます。
○委員長（赤井睦美君）　他に質問ありませんか。
○委員（佐藤智子君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。
○委員（佐藤智子君）　もしかしたら地元の人かもしれませんが、他所から来た場合にですね、教員住宅に住んでもらうとか、あまりその辺ははっきりしていないんですか。アパートに入ってもらうとか、住居の関係ではどのようにお考えですか。
○学校教育課長（三坂亮司君）　委員長、学校教育課長。
○委員長（赤井睦美君）　学校教育課長。
○学校教育課長（三坂亮司君）　住居の関係については、これ実際に採用してからの助成になると思いますが、教員住宅等も有効に活用できる方向で考えたいと考えております。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。なければこれで終わります。ありがとうございました。

【学校教育課職員退室】
【社会教育課職員入室】

○委員長（赤井睦美君）　それでは、令和５年度八雲町二十歳の集いについて、社会教育課よりご報告よろしくお願いいたします。
○社会教育課長（佐藤真理子君）　委員長、社会教育課長。
○委員長（赤井睦美君）　社会教育課長。

○社会教育課長（佐藤真理子君）　それでは社会教育課所管、令和５年八雲町二十歳の集いについてご報告いたします。

別紙資料をご覧ください。１、日時ですが、前回まで名称を成人式として行っていましたが、令和５年より八雲町二十歳の集いとして、令和５年１月８日、日曜日に開催いたします。

２番目、対象者ですが、今年度二十歳を迎える方が対象で、11 月１日現在、八雲町に住民票のある方は 106 名となっておりますが、八雲町出身で就職や進学で他の市町村に住んでいる方でも出席できるものとしております。３、会場は、昨年同様のシルバープラザです。

４、内容としては、式典、記念公演、動画上映を予定しております。また、この記念公演の講師ですが、お笑いコンビ、とんたくとを予定しております。このとんたくとは、２名で結成しているコンビで、そのうちの１名が八雲町出身の吉田とんさんです。芸名ですが。吉田さんは、ご自身が八雲町成人式で新成人代表として挨拶したときに、お笑い芸人を目指したいと話されておりまして、今現在も自分の目標に向かって進まれている方でございます。

５番目、記念品につきましては、今年度企画開発した木彫り熊デザイングッズといたします。６番、その他ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、二十歳の集いに参加する皆様に、体調確認のお願い、検温、マスクの着用、手指消毒などを徹底し、会場内でも対策を講じて実施いたします。

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容を一部変更、または中止することもあり得ると考えていますが、現時点では、予定どおりに進められるよう準備を進めてまいりたいと思います。前回同様、熊石地域から参加する方で、希望する方には送迎バスを利用していただくこととしております。なお、対象者には、案内文書を送付するとともに、町ホームページなどで情報を周知してまいります。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君）　このことについて、質問やご意見はありませんか。

○委員（佐藤智子君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。

○委員（佐藤智子君）　前にもあったんでしょうけれども、国歌清聴いらないと思うんですね。熊石に合わせたということなのかわかりませんが、八雲では八雲賛歌で始まっていたので、国歌清聴はいらないと思うんですけれども、いかがお考えですか。

○社会教育課長（佐藤真理子君）　はい、委員長、社会教育課長。

○委員長（赤井睦美君）　社会教育課長。

○社会教育課長（佐藤真理子君）　八雲地域、熊石地域、２地域で分かれたときには、委員がおっしゃるとおり、それぞれ違う八雲賛歌、国歌清聴として別々でやりましたが、２会場を統一して行うという中で、式典という意味合いもございまして、国歌清聴ということで統一して進めてまいりたいと考えているところでございます。

○委員（佐藤智子君）　残念です。

○委員（大久保建一君）　斉唱じゃなくて静聴なの、聞くだけなの。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。

○委員（倉地清子君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　倉地委員。

○委員（倉地清子君）　この吉田とんさんって、お笑いコンビの。これってなんか八雲町出身だって知らなかったし、すごく興味があるので、楽しみだと思っています。それだけです。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。なければこれで終わります。ありがとうございました。

【社会教育課職員退室】
【熊石教育事務所職員・住民サービス課職員入室】

○委員長（赤井睦美君）　それでは、旧熊石高等学校公宅取得事業概要について、教育事務所よりよろしくお願いいたします。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。
○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　午前中に総務経済常任委員会のほうで、ちょっと関連質問がございまして、今回説明します、熊石高校の公宅の経過について、ちょっと説明したことをご了承願いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　引き続き、係長のほうからご説明しますので、よろしくお願いいたします。
○教育推進係長（佐々木直樹君）　委員長、教育推進係長。
○委員長（赤井睦美君）　教育推進係長。
○教育推進係長（佐々木直樹君）　それでは、熊石高校公宅取得事業の概要について、私のほうから説明させていただきたいと思います。
　１枚目よろしくお願いいたします。熊石鮎川地区の旧熊石高校公宅については、所有者であります道教委の方針により、本来、使用用途が廃止されている物件ではありますが、熊石地域の小中学校に勤務する教職員のみ特例的に入居が認められており、現在、２棟６戸に入居中でありますが、維持管理物件の見直しにより、退去する物件について、新たに入居が認められてないことで対応されていることから、道教委から取得についての打診があり、購入する方向で計画しているものです。
　購入条件についてですが、敷地については無償で町へ譲渡され、建物については１ページ下段表の①から⑤までの５棟 11 戸を、令和５年度に教育費に予算措置し、一括取得する計画ですが、④の１棟４戸を移住定住に向けたお試し住宅などへの活用や、①と③の校長住宅、教頭住宅については、以前から町民からの取得要望などがあることから、購入を進めるものです。⑥、⑦の住宅については、道教委が償還中のため、令和５年度の入居状況などを把握した上で、償還後の令和６年度以降に購入を検討する予定でございます。
　２ページ以降に、入居状況や公宅の写真について掲載しておりますので、そちらをご覧願います。２ページの太枠で囲んでいる５棟 11 戸を令和５年度に、２ページ下段の２棟３戸を令和６年度以降に購入を検討する予定です。
　また、今後の移住定住への活用等については、このあと、介護人材の確保が急務なことから、住民サービス課より関係人口増加による持続可能な地域づくりの移住定住事業の構想についてご報告いたします。

令和５年度早期に条例制定など、必要事項の議会上程を含めて事務手続きを進める予定でおりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○委員長（赤井睦美君）　このことについて、質問やご意見はありませんか。

すみません。私、午前中居なかったので、重なった質問だったらごめんなさいね。これはすべて移住定住促進のために活用するということでよろしいですか。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。

○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　今、令和５年度で取得予定の物件については５棟 11 戸ございますが、このうち１棟４戸の物件については、お試し住宅で活用したいという計画でございます。それで、④の物件が一応活用したいと、お試し住宅に活用したいというのが④の住宅になります。

○委員長（赤井睦美君）　ごめんなさい。それ以外は、もう決まっているんですか、入る人が。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。

○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　すみません。②の物件については、現在、熊石地域の教職員が入居しておりますので、異動等があっても、引き続き入居できる形で用意したいと。それで、その他の３棟３戸については、ちょっと今、説明の中にもございましたが、町民のほうから購買しないだとか、そういう声も出ていますので、できるだけ意に添うように落ち着けたいと思っておりますが、ただ今回、道教委のほうから、ある程度金額高い形で買いますから、その金額で確かに購買が成立するかは不透明な部分がございますので、最終的には、もしかしたら貸し付けというかたちに落ち着く可能性も視野に入れております。

○委員長（赤井睦美君）　ここに５年度に専門業者へ鑑定評価を受託しって書いてるんですけれども、高い値段で買うというのはほぼ決まっているんですか。ごめんなさい、変な質問で。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。

○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　道教委さんのほうも、我々の教育長も含めて我々から意向を受けていますので、５年度の予算の中で鑑定評価の委託の予算を盛り込んで、新年度早々に鑑定評価を行って金額を固めたいと。その前段としては、町側からの取得が必要、取得したいという意向を受けての動きとなっていると思います。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。

○委員（黒島竹満君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。

○委員（黒島竹満君）　お試し住宅って八雲に今２戸あるしょ。それ毎年使われてるの。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。

○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　我々も今回、お試し住宅の条例を含めて整理しなければいけないということで、八雲地域に確かに２棟２戸ございますが、最近は入退去の動きがないのが実態だと伺っております。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　もう使われなくなってから２、３年経つので、それで今また八雲のほうでもないのに、熊石のほうでお試し住宅作るという部分については、どういうふうにこれから集めてくるんですか。募集の仕方は。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。
○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　このあとすみません。住民サービス課から次の報告案件の中で詳しくは説明したいと思っておりますが、とりあえず八雲と熊石の違いとして、熊石は八雲より何もないというのが逆に売りだと思っていますので、正直に隠すことなく、こんなド田舎でも生活してみてはというフレーズの中で、活性化を取り進めたいと思っております。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　これでだいたいそのまますぐに使える状態なの。直さないとないんじゃないの。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。
○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　熊石高校さんの１棟４戸の物件は、平成７年の建設で、２年前までうちの学校の教職員も住んでいたということで、建物自体は修繕箇所等々はないんですけれども、改めてお試し住宅ということであれば、必要な備品等々、日常生活の備品等々が必要になってきますので、申し訳ございませんが、備品購入費については、早ければ６月の定例会のほうに向けて準備を整えていきたいなと思っております。また、直営でやれる部分、委託でやる部分、指定管理でやる部分の結論が出ていない部分もあるので、それもこのあと揉んで、皆さんと協議した中で詰めていきたいと思っています。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　ここ何年も、それこそ移住促進事業も低迷して、ほとんどＰＲしていない状況でしょ。だからその中でさ、今後これからどういうふうにして、それこそＰＲして受け入れを考えているのか。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。
○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　細部については、このあとまた説明はします。ただ、今私どものほうに泊川小学校が活用しているリングローさん、デジタルの先進企業がございますので、例えばリングローさんに情報ＰＲをカバーしていただいたり、何かしら手立てをいただいた中で、幅広い活用を見出すことはできるのかなと思っております。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。
○委員（関口正博君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　旧熊石高校を公宅取得物件で桧山北高校の職員が入居中ってありますが、この方は熊石に縁のある方なんですか。それとも地域にそういう公宅がなくてこっちのほうまで来てる方なんでしょうか。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。
○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。
○熊石教育事務所長（野口義人君）　この２の物件に入っている桧山北高校の職員については、熊石町で生まれて熊石町で長年生活していて、それで元々、熊石高校さんが廃校になる前に熊石高校さんの事務方というかたちで働いていて、引き続き近場の高校ということで桧山北高校に異動した経過がございますので、最後まで熊石に在住する方かなと思っております。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。よろしいですか。よろしければ次の、関係人口の拡大による熊石地域の人材確保に向けた取り組みについてに移ります。
　改めて、関係人口の拡大による熊石地域の人材確保に向けた取り組みについて、住民サービス課よりご報告よろしくお願いいたします。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　関係人口の拡大による熊石地域の人材確保に向けた取り組みということで、資料１をご覧願います。
　熊石の現状として、資料１の１、３枚目の表も合わせてご覧いただきたいんですが、まず皆さんご存じのとおり、熊石人口減少が著しく進んでいるということで、改めて数字を使って皆さんと情報共有したいということで、作ってみました。
　まず、熊石地域の人口ですが、平成４年３月末現在、ちょっと古いですが、３年度末現在で 1，957 人、65 歳以上の人口は 1,141 人で、高齢化率は 58.3％となっております。10 年前の平成 25 年３月末と比較すると、人口で 741 人、65 歳以上人口では５人の減、高齢化率は 15.8％増加しているというふうになっております。中でも生産年齢人口、15 歳から 64 歳を比較すると、10 年前の平成 25 年３月末では 1,358 人おりましたが、４年３月末では 632 人減少の 726 人となり、率として 46.5％減少しております。半減しているというような状況です。
　資料１枚目に戻っていただきまして、このことが漁業や農業など一次産業分野にとどまらず福祉分野も含めて、すべての面において人材が不足しており、商工業者のほとんどは後継者がおらず廃業せざるを得ない状況だったり、高齢化率が高いので介護ニーズがあるものの、介護する人材も高齢化が進んでいると、それで空家等も増えて地域コミュニティの存在が存続できるかという危惧もしている状況です。
　平成 28 年３月、27 年度末で熊石高校が閉校になりました。そのことによって中学を卒業すると、熊石から外へ出ていかざるを得ない状況、人がいなくなるので働く場もなくなってくる。働く場もないので戻ってくる場所もないと。特に生産年齢人口の減少が、地域活動を

低下させ、熊石に残りたくても残れないというような悪循環に陥っている状況です。それで一方で、これまで移住というと退職者、富裕層の人が第２の人生を田舎でというイメージで移住するということがありましたが、コロナの感染拡大だったり、それに伴うテレワークの普及で、働き方改革などを受けて、現役世代の移住に関する勧奨は現在高まっていると。特に、都市部を中心に感染が拡大したこともあり、東京圏などへの人口集中リスクが改めて認識され、地方への移住だったり働き方に関心が高まっており、特に 30 代の子育て世帯においては、移住の意向が比較的高く、実際に地方への移住、地方へ移住するという人の流れを見られるようになってきております。

すぐにでもこの流れに乗って、移住者の獲得に向けて取り組みたいところですが、皆様ご承知のとおり、今後、日本全体人口が減少していく中で、人の取り合いになることは必須で、移住だけにこだわって事務を進めると、なかなか成果が上がらず疲弊していくというおそれがあると。そこで移住者を増やすためにも、前段でまずは関係人口を増やしていかなければいけないと考えております。

皆さん承知のことと思いますが、関係人口とは交流人口、観光客や移住しても定住した人口でもない、特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人々を指す言葉で、地域の外の人達が地域とかかわりを持つこと、それで住んでいると分からなかった地域の良さや欠点に気づいたり、客観的な視点から新たなアイディアや気付きを生み出す可能性があると、関係人口は地域にとっては触媒的な役割が期待されているところです。

熊石地域でも関係人口を増やすことで、かかわりを持つ人を増やし、かかわりを持つ人が増えることで、新たな外から新たな知恵やアイディアが地域に変化をもたらし、変化することで活力が生まれ、多様な人材が加わることで確保が難しい福祉や看護人材の確保につなげられればと考えております。重要なことは、負のスパイラルから脱却して、具体的な取り組みが必要なんですが、ただ議論するだけではなくて、行動に移して実践していかなければ意味がないと考えております。

それでは、どのような取り組みをしていくかということを、資料の２のほうになりますが、２ページ目になります。まず、様々な取組を考え実践に結び付け、主体的に動くための受け皿組織の整備が必要と考えております。役場が主導していくのではなくて、機関を共有する町民の人達と一緒に考え、実践していく体制を作るために、先日、町民有志と総合支所の職員でプロジェクトチームを立ち上げて、今議論を徐々に進めているところであります。

この組織が自立するための組織形態、株式やＮＰＯだったり一般社団法人だったりということを検討しながら、ゆくゆくは法人化を目指して、その取り組みを主導して中心的な役割を担う組織になればと考えております。言われて頼まれたからやるという民間の人達ではなくて、こんなことを考えてるけれどもやってみたい人いませんかということで集まってくれた人たちなので、すごく前向きな発言や検討を今しているところです。

現在検討しているのは、関係人口を増やして移住定住に結び付けるための考え方、具体的な方向性で、５の具体的な取組案となっていますけれども、その１から４の、４つの取組を柱に事業を進めていこうと考えております。

まず一つ目が空家物件の確保ですが、先ほどから、午前中も出てたんですけれども、旧すまぃるや旧熊石高校の公宅の取得を計画しているところで、その他にも移住者、実際にお試

し住宅に来て熊石に移住したいという人達が来たら、お試し住宅にいつまでも入れておくわけにはいかないので、そのための空家物件の情報を整理したり条件の整備を行っているという考え方、それと二つ目として、お試し住宅の整備、先ほどから言っていますが、生活が一定期間、生活が送られるような備品だったりを整備したり管理していく、利用していただいて管理していきたいと。それで利用していただいた方の中で熊石が気に入ったら空家にというような流れを作りたいと。

それと三つ目としては、情報の発信と企画です。空家を確保したりお試し住宅を整備しても、情報発信しなければ、利用に繋がらないと。お試し住宅を活用するため事業を企画したり、企画した事業を誰にどのように発信していくかを考えていく取り組み。それで最後に４つ目ですが、お試し就労事業の整備ですけれども、季節によって人手が欲しい生産者さんや事業所の情報を集めて、作業内容や作業量の時期などの情報を整備し、年間スケジュールに組み立てて担い手不足を解消する取り組みに繋げたいと。最近は、固定概念にとらわれない働き方で、一つの仕事に従事するのではなくて、同時に複数の事業業務に携わる仕事の仕方、マルチワーカーといわれる人もおりますので、その人たちもおりますので、こういう方たちも取り組んでいければと考えております。

これはあくまで今の段階で検討していることなので、今後の議論や実際に事業を進めていく中で、内容が変わっていく可能性があることを、ご了承願いたいと思います。

現在、プロジェクトチームでは、これらの４つの取り組みを踏まえて、５年度に向けて取得を計画している旧熊石高校の公宅を活用するために、厚沢部町で行っている最近注目を集めております保育留学を、熊石保育園と連携して具体的な取り組みに繋がらないかということを検討しております。また旧すまぃる熊石にも違った活用の仕方がないかを検討している最中でございます。

以上が、関係人口の拡大による熊石地域の人材確保に向けた取り組みについての説明です。よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君）　このことについて、質問やご意見はありませんか。

○委員（斎藤　實君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　斎藤委員。

○委員（斎藤　實君）　今、課長のほうから説明がありましたけれども、特にこのコロナ禍の前までは、各種団体においても結構、関係人口を構築した一面があるんですよね。ただ、この３年間、行政も民間の活動も停滞したままで、やはりその関係人口を作る環境にはなかったんですけれども、ただいつまでもですね、しぼんだままでいられないので、やはり再度、行政においてもこういうことを考えている。これはやっぱり、僕は大きく評価、地域においては大事なことだから、評価していきたいと思います。

特に、民間なんかでも関係人口を作っていかないと、やはり団体の活動自体も難しさが出てくるんですよね。特に熊石地域で大きな行事としてはお祭りがあるんですけれども、これ各町内会同士連携を取りながら、関係人口は結構、いろんなかたちでできていたんですよね。それがやはり３年間、やはりお祭りがないわけですから、新たに構築していかなければならないんですけれども。５年度はおそらく国のほうもいろんなかたちでもっと外国との門戸を開いてきていますので、やはり今までのような地域、大事だということで活動をしない部

分ですね、やはり今度は積極的に活動するしかないんじゃないかなって捉え方をしてるんですよ。そうしないと、地域全体の経済の活力も落ちてしまうので、是非とも行政は行政、そして民間は民間の団体もいろんな活動をしていくという、そういう環境を行政も作ってほしいなというふうに私は思うんですね。それでもう一点、この３年間、いろいろ連携とれてない方の大谷大学、３年前までは結構、連携とれていたんですが、この３年間の中でそういう連携は連絡等取れているのかどうなのか。その点についても説明願いたいと思います。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　委員長、教育事務所長。

○委員長（赤井睦美君）　教育事務所長。

○熊石教育事務所長（野口義人君）　域学連携の札幌大谷大学さんとの事業展開ですが、残念ながらコロナ禍もあって、学校のほうがいろんな制限があるということで、今現在、許されている部分が日帰りの距離だけの事業展開があるだとか、バスのほうの乗車のほうも、今まで定員満員乗れたバスが３分の１にしたとかいろいろ制限があって、今現在、八雲町まで足が運べないという状況が続いています。

　ただ来年度については、制限をある程度緩和される予測もたてられる状況なので、今後、午前中にお話したお試し住宅プラスアルファすまぃる熊石の拠点施設の活用も含めて、足を運んでいただいて、熊石に馴染んだ事業展開を行ってほしいかたちで、先生のほうにはお話ししておりますし、先生も熊石地域だけに特化することなく、八雲地域の山車行列への参加や、そういうものも視野に入れた中で活動を広げてくれるという話も伺っておりますので、ますますこのあと展開が広がっていくことを、お互いに願っているところでございます。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　関口委員。

○委員（関口正博君）　午前中もいろいろお話を聞いていました。地域の方々が地域をどうにかしなければならないって、こういうのを立ち上げるのは尊いことだと思うんです。いろいろ当然、やり方にいろいろな意見があると思いますが、力強く進めていただきたいですし、そういうことを考えるギリギリのところに来ているんだろうと。これ課長たちがいるあいだに、なんとか形にしていっていただきたいというふうに思いますので、今までの考え方では町を維持できるものではないですから、それで特に心配なのは、介護福祉人材、これも度々申し上げます。それで介護プランですか、そのようなものがあって、外国人材の活用っていうのも一文に加えられているはずですが、これ熊石地域において、現状、そういう外国人材を使っているような企業だとか、そういうものはあるんですか。

○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君）　外国人材を活用している民間企業は、熊石にはないと、我々の耳には入ってきていません。一時、確かに介護人材も不足してるから、外国人材の確保もやるかって話もしたんですが、やはり受け入れるための体制づくりや、地域や外国人がすぐになじめるかだとか、そういう環境づくりも作っていかなければならないとなると、なかなかハードルが高いかなっていう考え方で、ちょっとそれを考え方が止まっていたといいますか、それよりも関係人口で熊石で本当に何もない、何もないのがいいんだって大好き

だって人達を集めて、新しい風を入れるといいますか、刺激を入れて、そういう人達の力を借りながら、何か介護人材の確保や人材の確保に繋がるようなアイデアがあれば、そういうものを活用していきたいと考えているところです。
○委員（関口正博君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　私の住む落部でですね、この外国人材が入ってくるというときには、ちょっと拒否反応が出たんですが、もう二十数年前で。ところが、今は地域に欠かせない労働力として認知されている。今、外国人材も円安だとかいろんな影響で入り込みなどいろいろ大変になってきてはいるんだけれども、そういうところから突破口を開いていく。なかなか日本人が集めるのが大変であるなら、そういうことを考えたときに、プロジェクトチームの法人化、ＮＰＯ格や会社格、これというのは外国人材を受け入れるための一つの可能性を探る枠になることになるので、もし地域でこういうことをやってみたいだとかってものがあるのであれば、行政ではなかなか難しいのは分かるんです。たとえば商工会を使うだとか、こういうＮＰＯを使う、会社を作る、いろんな手法があると思いますので、どうか、この外国人材の受け入れに対しても、ちょっと積極的に目を向けていただければいいのかなと思いますし、１か月ほど前ですか、広報で熊石のちょっと若手の方々とお話をさせていただく機会があって、自分は、あのときに変にまだまだ大丈夫じゃないか熊石って、まだ間に合うって言ったらおかしい言い方になるけれども、何とかしなければならないって気概がすごく感じられて、そういう意味では、すごく可能性を感じた打ち合わせだったんですね。何とか、そういう方々の思いを含めて形にして、仮に失敗しても良いからチャレンジしていただきたいなというのが率直な意見です。いろいろな賛成意見、反対意見があると思いますが、そういう意見があるということだけは覚えておいていただきたいと思いますし、前に進めていただきたいと、個人的に思っています。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　この受け皿組織が、プロジェクトチーム作って話し合いをしてるんですが、地域審議会のメンバーの中に、むやみやたらに●●と思いましたので、地域審議会のメンバーに、新たにこんな構想、関係人口増やしていきたい、それを移住定住に繋げていきたいと話したら、積極的に面白そうだと、今やらなきゃこの先熊石ないから一緒にやりたいって人達を集めて、検討しております。
　外国人材も含めて、いろんなアイディアがきっと皆さんも含めてあると思いますので、それを拒否するのではなくて、こんな意見もある、あんなアイディアがあるって取り入れて、何から手を付けていくとか、どれなら今すぐできそうということを検討しながら、また人材も限られておりますので、限られた人材でどこまでできるかを考えていきたいと思っておりますので、応援のほどよろしくお願いいたします。
○委員（関口正博君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　自分も落部なので、これ田舎者の根性として、やる気がある人３人いたらなんとかなるって思ってずっと思ってやってきてるんです。実際にやる気のない人

間がいくらいても駄目なので、やる気のある人が２人でも３人でも募って、そしたらそれこそ人口って増えていくんです。何かにとらわれず、頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　これプロジェクトの法人や会社やＮＰＯだとかさ、これ全部入ってるの。何人くらいいるの。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　今、チームのメンバーとしては、民間の方たちが６名で、役所我々含めて５名で 11 人で動いています。この形で固定しようとは考えておりませんので、一緒にやりたいという人がいたら加わってもらったり、あるいは加わるまでもないけれども手伝えるって人がいたら、その人たちと連携しながらやっていけたらなって話をしています。それで、株式やＮＰＯだったり一般社団法人って書いてるんですけれども、今は任意の団体でやりたいという人達が集まって話をしていますが、やはり午前中にも話がありましたとおり、総合支所がこの事業を進めていくとなると、今後やっぱり無理が出てくると考えておりますので、今このチームが法人化して株式がいいのかＮＰＯがいいのか、まだ検討段階ですが、その人達が独り立ちして、これらの事業を進めて中心的に進めていくと。それで役場、行政のほうは、それをバックアップするかたちが理想かなというふうに思って進めているという状況です。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　そしたら、この会社だとか法人化だとかＮＰＯだとかは、まだ正式には入ってないんだ。それで今、６人というのは、町民の６人なの。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　この地域審議会のメンバー、14 人の方に声をかけて、そのうちから６人の方が手を上げてくれたと。是非やってみたいという人達が。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　やっぱりこれ、組織がきちんとできて前向きになるまでは、行政はしっかりと支えていかないと。多分、かなり難しいと思うから、是非、支えながら頑張っていただきたいなと思います。これができたら、本当に多分、やっていけるのかなと思うんだけれども。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　黒島委員がおっしゃるとおり、組織ができたから丸投げとは一切考えていないので、組織が法人化するまでは、もちろん役場が全面的に協力して

いきますし、法人ができたからといって、あなたたち好きにやりなさいって投げるんじゃなくて、やっぱり熊石のことを考えてもらえるような団体なら、一緒にサポート、何かすることがないのかだとか、協力が欲しいということを聞きながら、一緒に地域の活性化、活性化よりも維持をどうやってという話もできればと思いますので。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　今のすまいるの購入なんだけれども、昼前にもちょっと話があったんだけれども、自分のことではなく、結局、民間の施設だとかを持っている人達がいるから、その人たちを圧迫しないようなことをきちんと考えながらやっていかないと、今の民宿やそれこそ旅館をやっている人達がいるから、その辺もしっかりと見ながらやっていかないと、大変なことになると思うんですけれども。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　黒島委員がおっしゃるとおりだと思っております。宿泊施設を圧迫するために、関係人口を増やすんじゃなくて、そこはそこできっちり伸ばしながら関係人口を増やしていくと考えていかないと、本末転倒になるというか、地域振興のために●●というかたちにはならないと思いますので、今あるものは残しつつ、新たなものを新たな切り口で関係してもらえるような人達を増やしていくと考えていきたいと思っております。
○委員（黒島竹満君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　黒島委員。
○委員（黒島竹満君）　実際に、はっきり言って関係人口が比較するとか、また昼前に言ってた合宿だとか、一回も来たことないから、そういうふうにさ、力入れて動いたわけではないから、そういった部分を今これから考えてるなら、本当に考えていけるのかどうなのかって部分があるんだけれども、実際のところ、学生の受け入れだとかもやってるけれども、実際のところ、日帰りでほとんど帰ってるんでしょ。そういう部分も含めながら、とにかく一生懸命頑張って、熊石に人口入れれるように頑張ってください。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。
○委員（倉地清子君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　倉地委員。
○委員（倉地清子君）　午前中にお話をしていた、まちおこし協力隊がいらっしゃると思うんですが、その方もここに絡むって話でしたよね。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　今いる協力隊も、もちろんメンバーの中に入って、いろいろ外から来た人目線でといいますか、意見を言ってくれております。その方が言っているのは、熊石のメンバーは、こんな何にもないところに、スーパーもないところに人なんか来るわけないというと、その協力隊は何にもないのが魅力なんですと。逆に言うと、八雲地域みたいに、ちょっとした何でも揃ってると、都会と変わらないので、移住したという感覚

にならないというか、生活を変えたいと思ってくる人達にとっては生活は変わらないと。だから、熊石は田舎の好きな何にもないところを愛するような人達を募集するほうがいいですって話もしてくれてる、そういう方向で動きたいと。
○委員（倉地清子君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　倉地委員。
○委員（倉地清子君）　そのままでした。ありがとうございます。
　それで、その地域、まちおこし協力隊の方は、３年のあれですよね。今何年目で、それで結局そういうふうに言ってくれるってことは、八雲町にずっといてくれる感じなんですか。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　今２年目なんですが、コロナがあったものですから、なかなか活動が上手く広げていけなかったということで、取りあえず１年くらい延期できるという国の方針もありますので、一応、再来年くらいまでは残ってもらうかたちをとってるんですけれども。当然、終わったあとも残ってもらいたいと思っていますし、自分でも何か事業を起こせたらなって話もしていますが、それがまだはっきり定まっていないということで、逆に言うと、こういう組織ができたら、こういう組織に入ってもらったりだとかも、個人的にはいいと思ってるんですけれども、本人がどう思うかはあれなので、何とも言えないんですが、そういう意味も含めて、組織作りをしっかりとしていきたいと考えています。
○委員（倉地清子君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　倉地委員。
○委員（倉地清子君）　それ聞いて安心しました。
　その地域審議会の方、14 名の方がやっぱり私も会いましたが、画期的で心強い、志が強いなと感じたから、その方たちとも一緒に絡み合って熊石のことを引っ張っていっていけたらいいなって期待はあったので、質問させていただきました。ありがとうございます。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。
○委員（佐藤智子君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。
○委員（佐藤智子君）　まだまだ先のことになると思いますけれども、この中に農業体験とか漁業体験とか、そういうちょっとグリーンツーリズムとかブルーツーリズムとか、そんなのも組み込んでけると、ちょっとうまくいけば、なかなかそういうことをしたからってそれを仕事に選ぶとはならないと思うんですが、そういう第一次産業の方も巻き込んで、これを進めていけるって、そういう構想とかはお持ちなんですか。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　この資料２枚目の④のお試し就農授業整備というのが、まさしくグリーンツーリズムだったり、ブルーツーリズムだったりみたいなところに似てると。観光でいうとそういうかたち。農業体験させます、漁業体験させますって。一応、やっぱり移住してもらいたいから、その農家の仕事はこんな仕事だよって体験させて、１週間

でも２週間でも１か月でも体験してもらって、どんな感触かを体験できるメニュー作りはしていこうかなというふうに思っています。

あと、こういった、まだいつになるかわかりませんが、事業者自体も後継者がいないということで、自分の代で廃業を考えている事業者もおりますので、せっかくある例えば深層水の塩だとかお豆腐屋さんだとかありますので、そういうところにも後継者として募集して見るだとかで、事業を継続させていくということをできればいいかなというふうに思っています。なるべくそういうことも取り組んでいきたいと思っています。

○委員（佐藤智子君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。

○委員（佐藤智子君）　どこかに書いていたかもしれないんですが、厚沢部で保育園留学ですか、なんかそういうのも考えてみたいというのはどこかにあったと思うんですけれども、それは具体的に考えていく方向なんですか。

○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君）　一番、今、何か現実か実現させられそうかなという感じでおります。まだ東京で事業をやっているヒッチハイクって会社が、保育留学を手掛けてるんですが、そことは連絡は取りあってないんですが、現実、厚沢部の担当者のところに行って話を聞いたら、なんか熊石でも全然できますって、できそうだって思っていますし、厚沢部の担当者も全然できると。普通の保育園があって自然があれば、そういう人達が自然に触れさせたい子どもをそういう中で育ててみたいという親たちがいっぱいいるので、全然熊石でも環境さえ整えばやってくれるんじゃないですかということも言われていますので、具体的に今、住宅がいつ取得できてるとか、家賃がどれくらいで設定できるということを検討した中で、相手方と交渉しなければいけないと思いますので、それにしても何にもない中から動くよりも、そういう前例があって、やりたいといってそれにこたえてくれる事業者がありますので、一番今、現実的かなと考えていました。

○委員（佐藤智子君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　佐藤委員。

○委員（佐藤智子君）　ちょっと質問から反れるんですが、今せたなで酪農家やっている方がですね、もともとは大阪に住んでいたご家族ということですが、大阪にいるときにお子さんが小学校入学時や低学年のときから学校に行けなくなってしまって、それでピリカの山村留学にいったら、そっちのほうでは学校に行けるようになって、それで弟も学校に行けなくなって、また山村留学でピリカに行ったというのがあって、それでそのご縁で、今せたなで酪農家やっていて、その学校に行けなかった子が今、後継ぎになっているという事例があるので、そういう都会とかで学校に行けなかった子なんかも、そういうところでは生活していけるという事例も出てくるんじゃないかなと思うので、それが長い目で見て、なにかこっちのほうに住むきっかけになるかもしれないので、そういう希望もあるので、そんなのも頭に入れておいてもらえたらなと思います。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。

○委員（関口正博君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　さっきの会社の話に食いつくわけではないけれども、午前中も議長も言っていましたが、サーモンのこれからの体制づくりという部分、強い言葉で言っていたと思います。自分もそれは本当にそのとおりだと思います。それで何よりも大切なのは、地元の思いと情熱って、これ臭い言葉かもしれないけれども大切なことで、危機感だったりそういうものが原動力になりますし、これプロジェクトチームがもし、サーモン養殖事業を運営する母体となるなら、皆さん下向いちゃったけれども、これはこれで可能性として意味がある、将来の飯食う種だもん、町を支える種になるんですもん。こんなにやりがいのある仕事はないと思います。もし 14 人いる方々の中で、そういう方をまた一つ育てるというのも、熊石の将来を支える産業、人材を育てるって意味で、皆様方の役割が大きいですよ。何とかこんな話し合いの中から、いろんな発想って生まれるんだと思います。実際に熊石の方々とお話をしたときも、言葉を被せていけばそれに言葉が返ってきたりって、言葉のやり取りの中からいろいろな面白い話ができたのかなと。それで、最後の立ち話の中で、サーモンの話をちらっとさせていただきましたら、もしそんなふうに波及効果が生まれていくなら、これくらい心強いものはなくて、サーモン事業は本当に熊石地域のみならず、八雲地域のこれからを支える事業になる可能性がある、失敗する可能性もありますが、そこに一番大切な地元の情熱、●●と思っていますので、是非そういうものも、テーマの中に入れて話し合いをして、そういう人材を育てていっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。
○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。
○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。
○住民サービス課長（北川正敏君）　おそらく今すぐサーモンの事業をやらないかと聞くと、そのメンバーは、いやいやそれは漁師さんの仕事でしょっていうと思うんですね。なので、漁師さんのほうでも、作業をするのに人手が足りないとかっていったときに、ここで集めてきていた関係人口をあてがうといったらおかしいですが、そんな関係になっていくのかなというふうに思っています。まずは、やる気だったり、その気にさせるままのチームになるのか、今のところベストなのかなと。実際に自分たちがやるんじゃなくて、漁師さんたちにこんなおいしい思いができるって、コロナ大変だけど未来は広がっているよみたいなことを言っていくようなチームになっていくのかなって、今のところ思っています。
○委員（関口正博君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　関口委員。
○委員（関口正博君）　養殖は漁業じゃないですから。養殖って新しいものですよ。だから、そのときに門脇さん、本名だしたら駄目なのかもしれませんが来ていましたが、やっぱり今まで漁師やってきた方々の感覚であれば、戸惑ってきた部分があるんだろうと。ただ養殖というのは全く別物で、漁師だけの考え方では成り立っていくものではないですし、本当に長い時間かかるんだと思うんですよ。だからこそ、漁業者さんも含めて、いろんな業種の方々が集まって会社を成り立たせていったほうがいいと思います。実際に、青森サーモンファクトリーの鈴木さんは漁師じゃないのに、あの方の情熱ってすごいですよ。あの方が一人いれば、あれだけのいろいろあったけれども、それでもあれだけの事業になっていったんですもん。だから、いろいろなものを研修したり見たり、今までの熊石の枠にとらわれないで、今

までの漁業の枠にとらわれないで、申し訳ないが、檜山の漁業って一回は本当に今なんて悲惨な状況で、スケソウダラが賑やかだった頃に檜山って行ったことあるけれども、あの頃は羨ましいくらいの賑やかさだった。それが今こういう状況になって、本当に一回死んだと思って、漁業者ももう一回、檜山の海を再生するという思いで、何とかいってもらいたいと思うけれども、なかなかそういう環境でもないから、魚も獲れないし、だから他所から新しい血を入れながら、サーモン事業にあたっていただきたいなとは強く思います。

○委員長（赤井睦美君）　答弁はよろしいですか。

○委員（関口正博君）　いいです。

○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。無ければこの件はこれで終わって、次に、熊石デイサービスセンターへの温泉供給停止について、住民サービス課よりご報告よろしくお願いいたします。

○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君）　それでは、熊石デイサービスセンターの温泉供給停止について、資料２をご覧願いたいと思います。

午前中に産業課からも温泉の障害について話があったと思いますが、それを受けて熊石デイサービスセンターの温泉供給なんですが、平田内泉源から毎分 50 リッターの供給を受けていました。平田内泉源 13 号井戸内部に地下水が流入したとみられる、著しい温度低下による温泉障害が発生したため、温泉の汲み上げを停止するということになりました。そのため、全体の温泉供給量が低下することから、ボイラー施設など熱源を代替で確保できる施設があるくまいし荘とデイサービスセンターへの温泉供給を、冬期間停止させてほしいとなりました。熊石デイサービスセンターでは、入浴サービスのために浴槽へ毎日 11 から 12 トンの温泉を使用しておりまして、身体を洗うシャワーなどのお湯は、ボイラーなどの給湯で沸かされていました。熊石デイサービスセンターの運営事業は、熊石敬愛会に委託しておりますが、今後、浴槽への温泉供給が停止され、ボイラーによる給湯に切り替えるということになると、現在の指定管理委託料では経費を見込んでいないことから、明日の本会議で追加をお願いしようと考えておりました。

以上が、熊石デイサービスセンターへの温泉供給停止についての説明となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君）　このことについて、質問やご意見はありませんか。

一点、13 号の井戸が停止したということで、これはもう復活はしないで、ずっとボイラーでやるという考えですか。

○住民サービス課長（北川正敏君）　委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君）　住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君）　復活するかどうかを含めて、今後調査しなければならないとなっておりまして、今止めておかないと、どんどん悪くなるかもしれないということで止めたいということです。今、雪も深いですし、掘る業者さんも地熱開発ブームでなかなかすぐに見つからないということで、早くても来年の春以降でないと調査だったりができないということで、今回、補正を明日お願いするのは、12 月から３月までの今年度分の委

託料の増額をお願いしたいと思っておりまして、調査が終わらないと、その後、温泉の量がとれるのかどうかも分かりませんから、そうなると、一応、夏場になると温泉を使っているふ化場だったり、アワビセンターだったりが、夏場になると温泉を使わなくなるので、そうなるとまたデイサービスで温泉を使えるんですけれども、４、５、６月くらいの補正をまた３月議会でお願いするかもしれないということで、お願いしたいと思います。
○委員長（赤井睦美君）　他にありませんか。なければこれで終わります。ありがとうございました。

【熊石教育事務所職員・住民サービス課職員退室】

◎　その他

○委員長（赤井睦美君）　以上で報告事項は終わります。
　それで先日、講演会で聞いて条例を作りませんかってお話で、前向きに皆さんで作りましょうってなったんですけれども、今事務局から実際に作っている町の条例を取り寄せていただいて、それをもとにちょっとどんな順番で進めていくかということを、正副委員長で話し合ってこういうかたちで進めていきたいって決まってから皆さんにお願いして、そして条例を作っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
○委員（佐藤智子君）　ヤングケアラーのね。
○委員長（赤井睦美君）　そうです、ごめんなさい。そういうかたちでやることの順番が決まったら皆さんにご報告し、一緒に取り組んでもらいますので、よろしくお願いいたします。
　他に皆さんのほうから何かありませんか。
（「なし」という声あり）
○委員長（赤井睦美君）　そしたら事務局からありませんか。
○議会事務局庶務係長（菊地歩夢君）　はい。
○委員長（赤井睦美君）　事務局。
○議会事務局庶務係長（菊地歩夢君）　それでは来月の文厚の日程なんですが、予定として第３木曜日、１月 19 日、木曜日となりますので、予定として次回の文厚はそこでやりたいと思っています。よろしくお願いいたします。
○委員長（赤井睦美君）　以上で終わります。ありがとうございました。お疲れ様です。

〔閉会　午後　２時４５分〕